

## 受 講 案 内 詳 細

### グループスーパービジョンA

講師 古屋 龍太 先生(日本社会事業大学大学院 教授)

**【講師略歴】**1982年より国立武蔵療養所、国立精神・神経センター病院にソーシャルワーカー(PSW:医療社会事業専門員)として26年間勤務。2008年より日本社会事業大学専門職大学院准教授、2015年より教授、2016年より同研究科長。現在、日本精神保健福祉士協会理事、日本デイケア学会副理事長。単著に『精神科病院脱施設化論』『精神障害者の地域移行支援』、編著に『Q&Aでわかるこころの病の疑問100』、共著に『ソーシャルワーク・スーパービジョン論』など。

開催日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			20日	18日	15日	19日	24日	21日	19日	16日	20日	20日
開催時間	19時00分～21時00分 第3水曜日開催 (10月のみ第4水曜日)											
会 場	東京芸術劇場 5階会議室											
対 象 者	経験年数1年以上の方 注:認定社会福祉士のポイントを申請される方は、 <u>欠席・遅刻・早退</u> がありますと、 <u>証明書は発行出来ない場合があります。</u>											

### ～古屋 龍太先生より～

あなたは、日頃の現場で、もやもやを抱えていませんか？ソーシャルワーカー(SW)として、目の前のクライアント(CL)と向き合えているでしょうか？医療機関におけるSWとして、本当に仕事ができているでしょうか？転院調整係になってはいないでしょうか？

臨床現場でSWは様々なジレンマを抱え込みがちです。医療専門職がCL側の「問題」と考えがちな事柄は、実はSW側の課題を表しています。SWが、CLにとって最良の選択肢をと願っていても、自職場でできないこともあります。他職種との価値の相違や、チーム内における自身の立ち位置の課題に直面せざるを得ないこともあるでしょう。忙しい業務の中で、SWのかかわりは擦り切れてしまいがちです。自身の行為が本当にSWのかかわりとして適切であったか、他者の目を通して検証する場が必要です。GSV-Aグループでは、提出された事例について、皆で質問し相互に省察を深めていくピアGSVの形をとっています。取り上げるテーマは、SWのCLへのかかわり方を中心としつつ、チーム内でのSWとしてのポジション、医療経営とのかかわり、地域の関係者との関係など、同心円状に広がっていきます。SWとしての価値と視座を再確認しながら、自分の実践や周辺環境をどのように変えていくことができるか、その方法を皆で考えていきます。

もやもやの答えは、あなたの中に、既にあるはずで。GSVとともに語り合うことを通して、もやもやの言語化にチャレンジしましょう。

### ～昨年度の受講者の声より～

◆日頃の業務に追われ、なかなか振り返りができていなかった気がかりなケースを事例提供しました。他の受講生の視点や先生からの言葉で新たな気づきがあり、とても充実した研修となりました。

◆経験年数が近いSW同士、悩んでいることの共有、自分にはない視点・考え方を知ることができ、それを今後の業務に生かしていきたい。

◆率直な意見も言いやすい雰囲気、他の受講生の方との交流も深められ、モチベーションアップにつながりました。

◆他院SWと日々の想いを共有できる場であり、自身の業務遂行の救いになりました。